

経済文教常任委員会行政視察報告書（平成24年7月17日～19日）

作成：小暮博志

参加者：篠原一世、本郷淳一、鶴見義明、蓼沼一弘、青木栄吉、笠原敏夫、小暮博志

事務局：飯塚麻加

17日(火)視察：三重県志摩市 『地域ブランドと観光事業について』

説明：商工観光部商工課 西岡氏 他

18日(水)視察：京都府宇治市 『小中一貫教育について』

説明：小中一貫教育課

地域ブランドと観光事業について

（地域ブランドについて）

「稼げる！学べる！遊べる！新しい里海のまち志摩」ため、志摩らしい魅力ある地域産品などを志摩ブランドとして情報発信することにより、志摩市全体のイメージを高めるとともに、低迷している地域経済の活性化を図るために、地域ブランを始めた。

10名からなる志摩市地域ブランド推進協議会をつくり、志摩市地域ブランド認定実施要項をもとに認定を始めたとのことであった。

平成24年3月21日の志摩市地域ブランド推進協議会で、地元産の「きんこ芋」を原料とした焼酎を認定した。

地域ブランド品による経済効果をきいたところ、まだ算出しておらず、不明とのこと。

今後、一次産品（農産品）（水産品）の認定審査基準の策定をすすめ、拡大して行くとのことであった。

佐野市では、現在、、特産品として23品、自然、風土、文化、観光等で7つ、合計30を認定している。

佐野市においても、PRに一層努め、ブランド品の販売が一層伸び、相乗効果で佐野産品が一層伸びるように、他市に負けない様に努めなければ、と思った幸いです。

（観光事業）

志摩市は、人口56,500人の市です。観光客数3,799,300人、宿泊者数1,201,100人(平成23年)となっています。

真珠の養殖、伊勢えび、近くには伊勢神宮がある。佐野市の観光客約6,500,000人より少ないが、宿泊数は佐野市の約33,000人より36倍ほど多い。有名な観光施設や行事があるため、このような差が生じているものと思われる。

参考になるとと思われるのは、各種スポーツ大会の開催である。

- ・ ゴルフイベント＝USLPGAミズノクラシック（ギャラリー11,000人）
- ・ 志摩ロードパーティ＝ハーフマラソン大会の開催（7,000人）
- ・ ウォーキング大会の開催（3,700人）
- ・ サーフィン大会の開催（1,000人）
- ・ 漁業文化や景観を活用した取り組み —— 海女さんの撮影会、

その他、色々な事業を計画して観光人口を増やそうとしていることには、感服しました。

佐野市においては、一層の観光資源の開発が必要と痛感しました。

小中一貫教育について

宇治市は人口190,000人の市であり、平成24年より、全ての中学校ブロックで小中一貫校教育を実施している。

大きな目的として、学校規模と学校配置の適性化がある。

平成17年5月に、小中一貫教育基本構想委検討員会を立ち上げ、、小中一貫教育のねらいを定めた。

- ① 系統的・継続的な学習指導により、確かな学力を育成する。
- ② " "、個性の伸長と社会的な資質や能力・態度を育成する。
- ③ " "、地域に自信と誇りを持ち地域に貢献する人材を育成する。
- ④ 児童生徒間の多様な交流活動や地域との交流により、豊かな人間性や社会性を育成する。
- ⑤ 小中教職員が相互に交流を深めることにより、教職員の資質と指導力の向上を図る。他。

一貫教育の方向性として、小学校の英語活動の設定、小学校高学年での選択学習等を定めている。

今まで、8年の経過を分析すると、一貫教育により、児童生徒の意識(学校が好き、勉強が好き、自主性の向上等)の向上、小中間での指導上の課題(不登校児童数)向上が見られているとのことであった。

教育は、将来を左右する大きな仕事である。

今、佐野市では小学校統合の要望がでている。

子どものために、最も良いと考えられる方向に向けて、前進して行かなければいけないと考えます。